

- 問1 男女共同参画を目指す日本において、いまだに解決すべき課題として残されている、男性の平均賃金が女性の平均賃金よりも高い状態などに代表される問題を何といえますか。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
1. 世代間における所得の格差 2. 働く外国人増加による格差 3. 平均寿命の差による格差 4. 性別による働く環境の格差
- 問2 現代の経済活動において、水道事業や公共交通などのように、国や地方公共団体が経営主体となり、公共の福祉やサービスの提供を主な目的とする企業の名称として適切なものはどれですか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 公社 2. 株式会社 3. 私企業 4. 公営企業
- 問3 株式会社の仕組みにおいて、株主が持つ権利と企業の利益の関係について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
1. 株主は企業に対して資金を貸し付けている立場であるため、利益の有無に関わらず毎年一定の利息を受け取る。
2. 株主は株主総会での議決権を放棄する代わりに、企業から受け取る配当金の額を自由に決定できる。
3. 株主は企業の経営に直接携わる義務があるため、役員に選出されなかった場合は配当を受け取ることができない。
4. 株主は出資者として、企業の経営によって得られた利益の一部を配当金として受け取る権利を持つ。
- 問4 景気が悪化して商品の売れ行きが落ちる不況の時期において、企業が在庫を抱えすぎないようにするために一般的にとる行動として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 従業員の数を大幅に増やす 2. 商品の生産を減らす 3. 商品の販売価格をさらに引き上げる 4. 全従業員の給与を一律に引き上げる
- 問5 ある飲食店では、顧客の待ち時間を短縮し、座席を無駄なく埋めるために、受付票の形式を変更しました。これまでは名前のみを記入していましたが、希望する座席（カウンターやテーブルなど）を選択できる形式にし、店内の空席状況と照らし合わせて柔軟に案内できるようにした事例があります。このような工夫の背景にある考え方として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 利潤の追求を止め、従業員の作業負担を減らすことだけを目的としている。
2. 限られた設備や時間を有効に活用し、座席の稼働率を高めて成果を最大化しようとしている。
3. 順番が前後することによる不公平感をなくすため、効率よりも平等の実現を優先している。
4. あえて客席を空けておくことで供給量を制限し、サービスの希少価値を高めようとしている。
- 問6 経済の循環において、家計から提供された労働力を使い、財やサービスを生産・販売することで得られる「利潤」を目的として活動する経済主体を何というか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
1. 非営利組織 2. 家計 3. 政府 4. 企業
- 問7 企業の社会的責任（CSR）に関連して、配送センターを活用して複数の企業の製品を積み合わせ、効率的に輸送を行う「共同配送」の説明として正しいものはどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
1. 配送の効率を高めることで排気ガスを抑え、地球温暖化防止などの環境保全に貢献する仕組み。
2. 製品を製造した工場から消費者の自宅まで、一切の配送業者を介さずに企業が直接届ける仕組み。
3. 各企業が独自の判断で配送車を走らせ、他社との関わりを断つことで、配送のスピードのみを追求する仕組み。
4. 環境負荷を考慮せず、大量のトラックを導入することで、一度に運べる荷物の総量だけを増やす仕組み。
- 問8 ワーク・ライフ・バランスが実現された社会において、個人が選択・実現できる状況の具体例として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 長野県公立入試 類似)
1. 育児や介護が必要な時期に、テレワークや短時間勤務制度を利用しながら、仕事を辞めずに継続する。
2. 完全週休二日制を導入している企業において、休日に一斉に地域活動へ参加することが法律で義務付けられる。
3. 個人の趣味や学習の時間を一切排除し、地域コミュニティとの関わりを断って仕事の専門性を高める。
4. すべての国民が人生のどの段階においても、昇進と高収入を目指して一律のキャリアパスを歩む。
- 問9 日本の製造業の統計において、企業数や従業員数では中小企業が占める割合が非常に大きい一方で、大企業の割合が約62.2パーセントと、中小企業の約37.8パーセントを大きく上回っている指標はどれですか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
1. 事業所数 2. 売上高 3. 企業数 4. 従業員数
- 問10 日本の企業を規模別に分類した統計において、全企業数に占める中小企業の割合は約99%に達します。この中小企業の雇用における実態について述べたものとして、正しい説明を選びなさい。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)
1. 中小企業の割合は年々減少しており、現在は全従業員数の過半数を大企業が雇用している。
2. 全従業員数の約7割が中小企業で働いており、日本経済と雇用を支える重要な役割を担っている。
3. 製造業においては大企業の割合が高いが、サービス業では中小企業の従業者数は全体の3割に満たない。
4. 企業数では圧倒的に多いものの、全従業員数に占める割合は大企業に比べて極めて低い。
- 問11 日本の製造業、卸売業、小売業、サービス業といった主要な業種において、企業数全体に占める「中小企業」の割合として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 愛知県公立入試 類似)
1. 約30% 2. 約85% 3. 約60% 4. 99%以上
- 問12 現代社会において、多くの企業が利潤の最大化だけでなく「企業の社会的責任」を重視した経営を行うようになっている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
1. ボランティア活動に専念することで、本来の目的である利潤の追求を完全に停止し、非営利組織に移行するため。
2. 公害問題や食品偽装などの不正を防ぎ、社会の持続可能性と企業の長期的信頼を確保する必要があるため。
3. 社会貢献活動にかかる費用はすべて政府から補助金として支給され、企業の利益が確実に増える仕組みだから。
4. 政府がすべての企業の経営方針を決定しており、社会貢献をしない企業には重罰を科す制度があるため。
- 問13 日本の現代社会において、性別に関わらず対等に参画できる社会を目指す上で改善が求められている、労働面での課題として最も適切なものはどれですか。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
1. 平均寿命の伸びによって、若年層の平均賃金が著しく低下していること
2. 高齢者の働く環境が整ったことで、男女間の賃金差が完全に解消されたこと
3. 外国人労働者数の増加に伴い、男女の平均寿命が急速に伸びていること
4. 男性の平均賃金が女性を上回る状態が続くなど、男女間で働く環境や待遇に格差があること